

真政会



こまつ よしゆき
小松 良行



市民の生命と財産を守ることに

Q 大規模災害が多発する中、市長は市の代表として、市民の生命と財産を守り抜く重責を担うが、どのような姿勢で取り組むのか。

A 市民の生命と財産を守ることは、すべての政策に優先する最も重要な使命であり、最悪を想定し最善を尽くすという危機管理の原則を徹底していく。第1にデータに基づく防災体制を強化し、行政、市民ともに正確な情報にアクセスできる仕組みを整え、被害を最小限に抑える。第2に地域の自主防災組織、学校、企業、医療福祉機関などとの連携を平時から深め、顔の見える協力体制を築いていく。第3に避難所運営、物資供給など実際のオペレーションの質を高めるため、訓練やシミュレーションを徹底し、実行力のある危機対応体制を作り、実践的な備えを積み重ねることが重要である。何より、市民一人ひとりが自分の命を守る力を高めていただくことも欠かせないことから、今後もしっかりと、身近で命を守る行動につながる情報を届けるよう努める。

■その他の主な質問

- メガソーラー発電施設の設置規制強化についてこれまでの取り組みの評価と今後の国、県への働きかけ
- 駅東口再開発事業の問題点と見直しの必要性
- シルバーパスポート制度の課題と今後の展開
- 持続可能な財政運営に対する見解

真結の会



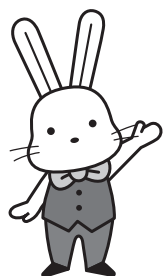
しきた かずてる
穴戸 一照



市政運営について

Q 市が何に挑戦するのかを含め、市の代表として、市長が市政に取り組む基本方針は。

A 地方行政の課題が多様化、複雑化する中、未来を切り拓いていくには、果敢に挑む挑戦の文化が必要であり、挑戦するには人が安心できる環境が不可欠である。市が進める次世代文教都市では、人が安心して住み育つ安心社会をつくり、挑戦の文化を根付かせ、挑戦の積み重ねの先に未来を切り拓くという循環を生み出していく。すべての子ども達も笑顔にし、まちのみんなが笑顔になる、



豊かな経済を創造する次世代文教都市の実現に向け、3つの最優先事項と8つの基本方針に基づき取り組みを進めていく。市政を担う上で大切にした姿勢は、市民と共に前へ進む市政である。人口減少、物価高騰、災害リスクなど直面している課題は、地方において厳しさを増しており、東京一極集中が進み、地方から人と経済が流出する構造が続いている。地方の豊かさをつくり続けるには、市民と共に未来をつくる姿勢が不可欠であり、公開型の対話集会やデータに基づく政策判断を通し、市政の方向性を市民と共有し、納得できる決定を積み重ねていく。市民一人ひとりと向き合い、寄り添い、共に前へ進む姿勢を貫き、市民一人ひとりの力の結集で、市全体を強くしていく市政を目指す。市政運営には財源が必要であるため、安心して人が住み、集える環境をつくり出し、挑戦の文化を根付かせ経済を起こし財源を整えたまちづくりを土台とし未来づくりにつなげていく。この人づくり、まちづくり、未来づくりの循環により成り立つ次世代文教都市を目指すビジョンとして、市政を動かしていく。

■その他の主な質問

- 市民目線の大改革を行うための最優先事項とした3項目について
- 3つの最優先事項と8つの基本方針の具現化のための「ふくしま共創のまちづくり計画」の再協議、見直し
- 再開館する民家園(旧広瀬座)の管理運営方式
- 市議会議員の定数削減

市民 21



たかぎ かずひさ
高木 克尚



市の歴史と未来戦略本部

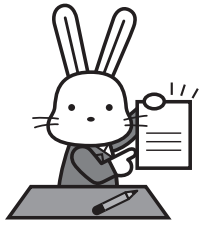
Q 基礎的かつ安定した市民サービスを地道に提供するといった本市の生い立ちと未来戦略本部の役割と市の歴史観を踏まえ第7次総合計画などの基本的構想を未来戦略本部ではどのように取り扱うのか。

A 市の歴史は、明治、大正、昭和、平成、令和とつながった一つの歩みと考えている。県政や文教の中心を担い、恵まれた都市基盤を形成してきた本市の歴史を尊重することは当然のことと認識しており、先人によって築かれた大切な財産である。歴史を継承し次の時代へ生かすこと

が、市長の役割と捉えている。未来戦略本部は、各支所単位での対話集会や各分野の方との意見交換会などを通して、世代や立場を問わず、共に前へ進む場としての役割を担う。多様な市民の声を政策に反映していくことで、市民の行動がまちを変え、実感を持てる市民目線のまちづくりを進めていく。8つの基本方針でも歴史文化の継承を掲げており、18年に及ぶ市政の歩み、流れを理解し、受け止め、未来戦略本部における市民目線の改革を通し、市民が挑戦できる新しい県都福島づくりを進めていく。

■その他の主な質問

- 本市における閉塞感の状況と解決に向けた対応
- 総合計画策定延期による影響
- 駅前再開発の優先整備エリア設定に伴う工事費や法的対応への影響
- カスハラ防止に向けた制度の構築



公明党

東西一体の
まちづくり



丹治 誠
たんじ まこと



Q 東口再開発の進捗に合わせ、西口や周辺エリアの整備をどのように進め、東西のバランスを確保するのか、交通結節機能や回遊性の向上を含め、市民生活に直結する利便性をどのように高めていくのか。

A 東西一体のまちづくりについては、東口再開発だけでなく西口も含めた駅周辺全体の価値を高めることが重要である。東口及び西口周辺の将来像を見据えた中で、東西の連携強化に向けた新たな東西自由通路や交通結節機能が集中する東口、西口駅前広場の再構築など、市民の皆様が快適に利用できるよう、駅東西を一体的にとらえた回遊性を意識した計画を検討していく。

■その他の主な質問

- 本市独自の重点支援地方交付金の活用
- 子育て家庭への支援強化
- 既存メガソーラーにおける防災面、景観面の対応
- 本市の目指す将来像と次世代文教都市について

日本共産党

公共施設の
市民利用



山田 裕
やまだ ゆたか



Q 東口再開発の公共施設において、これまでの呼び込み型の利用から、市民の利用を最優先するという方針か。

A 駅前施設には、市民利用スペースとして自由に利用できるまちなかりビング、屋上広場などを設けるとともに、フレキシブルホール、会議室は、市民の皆さんにもハレの場として大いに利用いただきたいと説明してきた。市民の日常的な利用をどうするかという点を重視しながら、機能の磨き直しを図っていく。一方で、これまでの議論の経過を尊重していかなければならないため、両方の観点をかんがみながら、関係者としっかり協議を重ねた上で最善策を一緒に考え出していく。

■その他の主な質問

- シルバーパスポートの上限撤廃
- 重点支援地方交付金による水道料金の減免
- 2013年まで遡及した減額された生活保護費の全額支給
- 雇用保険に加入していない労働者数と割合、県への支援要請と市独自の賃上げ支援

議会を傍聴してみませんか！

■本会議の傍聴

会議当日に複合棟(議事堂)5階の傍聴受付で傍聴証をお渡しした後、傍聴席へご案内します。

本会議における一般傍聴席の定員は62席のほか車いす席が4席で、いずれも先着順となります。

■委員会の傍聴

会議当日に複合棟(議事堂)4階、議会事務局で傍聴証をお渡しした後、委員会室へご案内します。

委員会における一般傍聴席の定員は5席で先着順となります。

